行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業―CIS 活動報告(ダイヘン六甲事業所)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2019 年度のインバウンド CIS (カップリングインターンシップ)が、9 月 15 日―28 日の期間にダイヘン六甲事業所(神戸市)で開催されました。大阪大学の工学研究科 2 名、経済学研究科 1 名、外国語学部 1 名、KMUTT(モンクッド王トンブリ工科大学)の経営学研究科 2 名、工学研究科 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、CIS の全工程を引率しました。

2 日間(9 月 16 日―17 日)の事前研修を阪大・接合研で行い、日本企業の経営理念やコミュニケーションの研修、実習企業の紹介、溶接知識の教育、実習テーマの検討などを行いました。

9 月 18 日から 5 日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先のダイヘン六甲事業所で、会社の紹介(方針、組織、業務)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学(ロボットの製造他)、工場実習(品質検査、ロボット操作、マグ溶接)やダイヘン溶接機事業部の幹部やスタッフとの面談を行いました。9 月 24 日には、変圧器を製造している南電器製作所(香川県多度津郡)の見学もしました。また、実習テーマ「グローバル人材育成における課題と対策」について、学生は連日一生懸命に取り組みました。なお、9 月 22 日には、文化体験として全員で京都へ行き、親交を深めました。

最終日の 9 月 27 日に、阪大・接合研で学生はテーマの検討結果を発表しました(写真)。最終報告会には、ダイヘンの前田部長、真鍋部長、宮原課長、KMUTT の Anak 学長補佐、阪大の西川教授、橋本特任講師、菅客員教授ら計 23 名が参加し、活発な質疑応答が行われました。前田部長からは、「グローバル人材育成のあり方」に関する熱いメッセージがありました。

学生は、ものづくり企業の現場を体験すると共に、実習テーマを通して「異文化コミュニケーション」の理解が出来ており、大変有意義な学びを得る活動でした。また、インバウド CIS は、日本人学生が自身のアイデンテイテイーを考える良い機会ともなっているようでした。